

視察報告「議会のあり方」学ぶ

議会運営委員会(上野議員所属)

いずこもたいへん、中心市街地

中心市街地活性化対策特別委員会(樋口議員所属)

議会運営委員会と中心市街地活性化対策特別委員会はこのほど、全国各地の先進事例を学ぶ行政視察を行いました。参加した上野議員と樋口議員の報告です。

▼樋口議員－

中心市街地活性化対策特別委員会▼

山形県鶴岡市、酒田市の市街地活性化策を見学してきました。

鶴岡市は藤沢周平の故郷とあって、「藤沢周平記念館」で人を呼び、夜遅くまでのナイトバザールに4～5000人もの人出があるとのことでした。また、酒田市は豪農本間家や豪商鎧屋で有名なほか、映画「おくりびと」の舞台として人を集めています。

しかし、これらの人出にも限界があり、日常的なにぎわいまでにはなっていないようです。

酒田市には、地場産の品物を扱う市場があり、活況です。参加した議員から「直江津の屋台会館を活用して

地場産市場にしてはどうか」という声が出されていました。



▼上野議員－議会運営委員会▼

2日間にわたる議会運営委員会の行政視察に参加し、会津若松市議会では議会の活性化の点で大変たくさんのお話を学びました。



同市議会では、議員

は議員間の自由な討議を通じて論点を絞り込み、その討議を通じて争点を深く認識します。

さらに、関心を持つようになった市民からさまざまな意見が議会に寄せられます。

こうして「議会の中での議員間討議」と「市民意見を聞いた議員が個々に出した結論」が連関性を持って議決が行われ、条例や予算が最終的な形で「議決」されて「政策の選択」が行われていきます。まさに本来の議会のあり方に沿って運営されていることを感じて来ました。

同市の議会基本条例には「主権者である市民の負託にこたえて」や、「市民参加を基軸とし」「市民意見を起点とした」など、まさに市民が主人公であることを示す言葉がいたるところに出ています。

上越市議会でも、11月1日の臨時議会で「議会基本条例」が議員発議として提案されることになっています。

会派や議員の個々の考えの違いを超えてまとめあげられた議会の憲法ともいえるべきものです。市民からしっかりと議会が信頼されるそんな状況にしていきたいものです。

学ぶ意欲高めるICT教育 上越は全国の先進

21日、上越市議会は議員勉強会で、全国の中で先進を切っている上越市のICT(情報通信技術)教育に関して学びました。講師は上教大の石野教授など3人。委員会室に2台の「電子情報ボード」を持ち込み、実際の授業風景を再現して、リアルに学びました。紙の教科書だけでは集中力を維持できない子どもたちが増える中、子どもたちの学習意欲を高めるための方法を、先端技術を取り入れられていくことを実感しました。



多忙化について質問する平良木議員 うしろにあるのが電子情報ボード

とほいつても、子どもの変化だけでなく、保護者対応や地域行事への参加の増加などで、学校現場の多忙化は看過できません。そうした変化に対応できるだけの教育予算や教員の拡充こそ求められています。

ての学校に電子情報ボードが設置され、活用されています。来月19・20日には、教育工学の全国的な研究会が上越市内で開かれます。先進例が多数発表されることでしょうか。問題は、そうした機器の導入によって現場の教員の多忙化が助長されないかという点です。樋口議員や平良木議員がその点を質問したところ、校務処理にもICTが活用され、他市に比べ事務処理がかなり軽減されているとのことでした。

農業政策・除雪対策などで多くの注文



橋爪議員の報告会



上野議員の報告会

日本共産党市議団ではいま、橋爪団長を先頭に各地で議会報告会を開催しています。このうち橋爪団長は先週から吉川区10町内会で開催。報告会では、いまの市政の実態を国の政策との絡みで明らかにして、参加者と懇談をしています。橋爪団長の報告はスライドを使い、しかも身近なことにもふれることから好評です。参加者との懇談では、除雪対策に対する注文や農業政策、地域事業費の見直し問題、並行在来線対策などでの意見が次々とだされています。懇談などでお寄せいただいた注文や要望は、速やかに関係機関につなぐようにしています。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.255 2010年10月31日

連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)
 樋口 良子 544-6802 (中門前3)
 上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)
 平良木 哲也 525-9096 (上中田)

環境保護のため、このニュースは再生紙を使用しています。

党市議団各地で議会報告会